

第5学年 国語科学習指導案

1. 単元名 環境に適応して生きる動物たちの不思議を解き明かそう

「動物の体と気候」(東書5年)

「ふしぎふしぎ動物ランド(2環境と適応)」(大日本図書)

2. 単元目標

- 文章の構成を考えながら、要旨をとらえて読み、文章の内容を適切に引用したりして紹介し合うことができる。

3. 単元の評価規準

- 環境に適応して生きる動物に興味をもち、進んで読もうとする。

[国語への関心・意欲・態度]

- 文章の構成を考えながら内容を読み取り、要旨をとらえている。

[読む能力]

- 要旨をとらえ、動物ふしぎ発見カードに書き、その表現について助言し合っている。

[書く能力]

- 筆者が説明に用いている文章の構成について理解している。

[言語についての知識・理解・技能]

4. 単元と言語活動の関わり

本単元は、文章構成図を活用しながら、書かれている内容を読み取り、その要旨を的確にとらえることをねらいとしている。これは、学習指導要領におけるC読む(1)ウ「目的に応じて、文章の内容を的確におさえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係をおさえ、自分の考えを明確にしながらかんたたりすること」を踏まえている。

この単元の言語活動として、環境に適応して生きる動物たちの不思議を解き明かすために、読み取ったことを「動物ふしぎ発見カード」に書いて発表する「動物ふしぎ発表会」という活動を設定した。要旨をとらえるためには、文章に書かれている内容を正確に読み取っていただくだけでなく、意味段落相互の関係や文章全体の構成をとらえる必要がある。そのため、それぞれのまとまりに書かれていることを短くまとめる活動を行いながら、文章構成図に整理し、「動物ふしぎ発見カード」を書いて発表するという学習の流れを考えた。

本単元では、教材文として「動物の体と気候」と「ふしぎふしぎ動物ランド(2環境と適応)」を取り上げる。まず、「動物の体と気候」で文章の読み方を学び、学んだことを生かして、「ふしぎふしぎ動物ランド(2環境と適応)」を自分たちで読み進め、環境に適応して生きる動物たちの不思議を解き明かそうとする。複数の情報を関連付けて読むことにより、課題解決に向けて主体的に読み、思考を深めることができると考える。「動物の体と気候」は、大きく序論・本論・結論で構成されており、典型的な説明文の構成である。段落相互の関係も明確で、文章の構成をおさ

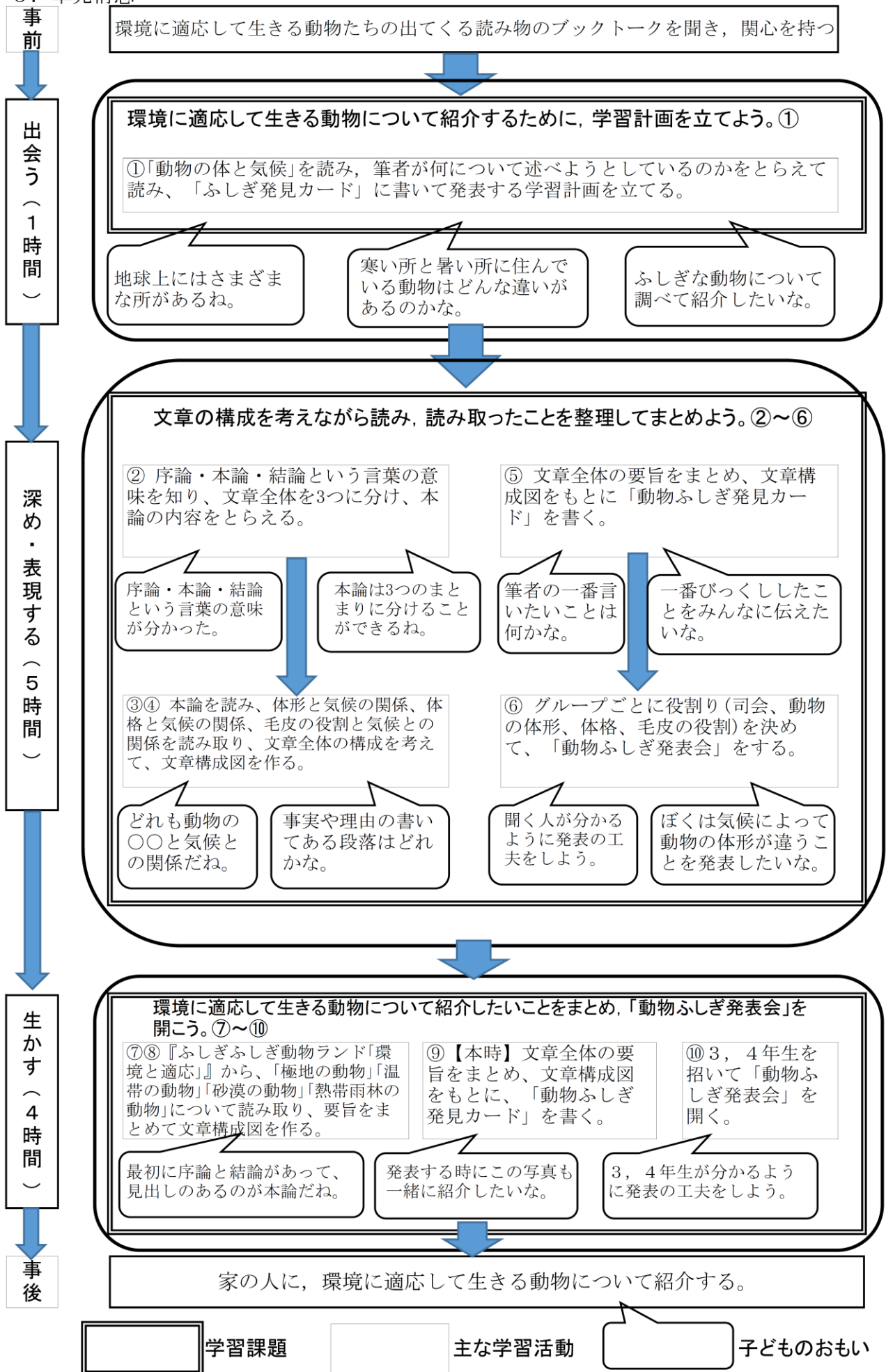
えながら要旨を読み取らせるのに適した教材である。「ふしぎふしぎ動物ランド（2 環境と適応）」は、環境に適応して生きる動物について、まとまりごとに見出しがつけられており、段落相互の関係や文章全体の構成を読み取らせるのに適した教材である。

指導に当たっては、児童が主体的に読み進めることができるような学習過程を考えた。

学習過程	内 容
事前	環境に適応して生きる動物たちの出てくる科学読み物のブックトークを行い、科学読み物への意欲づけを図る。
出会う	「動物ふしぎ発見カード」のモデルを提示しながら、環境に適応して生きる動物の不思議を解き明かすために、「動物ふしぎ発表会」を開くことを伝える。また、自分たちで学習計画を立てることで、学習への意欲付けと見通しをもたせるようにする。
深め・表現する	教材文「動物の体と気候」を文章の構成を考えながら読み、文章構成図にまとめ、文章の要旨をとらえさせる。そして、読みとった動物のふしぎを見出し（事実）と説明で「ふしぎ発見カード」にまとめさせる。それをもとに、「動物ふしぎ発表会」で動物の不思議を伝え合う。
生かす	教材文「動物の体と気候」で学んだ文章の読み方を生かして、「ふしぎふしぎ動物ランド（環境と適応）」の文章を読みとっていく。自分たちの力で文章の要旨を読み取り、文章構成図にまとめていく。ペア学習を取り入れ、友だちのまとめ方や読みとりのよさに気づかせることで学び合い、自分の考えを深めることができるようにしたい。そして、読みとった動物の不思議を見出し（事実）と説明で「ふしぎ発見カード」にまとめさせる。それをもとに、2回目の「動物ふしぎ発表会」を開く。3・4年生を招いての「動物ふしぎ発表会」であることを確認し、目的意識をもって分かりやすく伝えるための工夫も意識させたい。
事後	「動物ふしぎ発見カード」をもとに、家族に環境に適応して生きる動物について紹介する活動を行う。また、他の動物の科学読み物への興味を高め、進んで読書するよう意欲を高めるようにする。

本時は、生かす過程の3時間目である。文章構成図をもとに、要旨を確認しながら、紹介したい「動物のふしぎ」を見出し（事実）と説明で「動物ふしぎ発見カード」に書く活動を取り入れる。ペアでの話し合いの場を設定し、互いのまとめ方や読みとりのよさに気づかせることで考えを深めることができるようにしたい。

5. 単元構想



6. 指導と評価の計画(全10時間)

過程	学 習 活 動	学習活動における評価規準 (評価方法)
出 会 う	① 「動物ふしぎ発見カード」のモデルを提示し、環境に適応して生きる動物の不思議を解き明かすために、「動物ふしぎ発表会」を開くことを伝える。「動物ふしぎ発表会」の学習計画を立てる。	(関) 動物の体と気候との関係に興味をもち、進んで教材文を読んだり自分の考えを出したりしようとしている。 (観察・発言)
深 め ・ 表 現 す る	② 序論・本論・結論という言葉の意味を知り、文章全体を3つに分け、本論の内容をとらえる。 ③④本論を読み、体形と気候の関係、体格と気候の関係、毛皮の役割と気候との関係を読み取り、文章全体の構成を考えて、文章構成図を作る。 ⑤ 文章全体の要旨をまとめ、文章構成図をもとに「動物ふしぎ発見カード」を書く。 ⑥ グループごとに役割り(司会、動物の体形、体格、毛皮の役割)を決めて、「動物ふしぎ発表会」を開く。	(読) 本論1～3のそれぞれのまとまりをとらえ、その内容をまとめている。 (発言・ワークシート) (読) 段落ごとに書かれている内容を読み取り、まとまり相互の関係をおさえている。 (発言・ワークシート) (読) まとまり相互の関係をおさえ、文章構成図に整理している。 (発言・文章構成図) (読) 文章の構成を踏まえ、教材文の言葉を使いながら要旨をまとめている。 (ワークシート・発表) (書) 「見出し(事実)」と「説明」で分かりやすく「動物ふしぎ発見カード」を書いている。(動物ふしぎ発見カード) (読) 動物のふしぎを分かりやすく発表することができる。(発表)
生 か す	⑦⑧ 『ふしぎふしぎ動物ランド「環境と適応」』から、「極地の動物」「温帯の動物」「砂漠の動物」「熱帯雨林の動物」について読み取り、要旨をまとめて文章構成図を作る。 ⑨ 【本時】読み取ったことをもとに、「動物ふしぎ発見カード」を書く。 ⑩ 「動物ふしぎ発表会」を開く。	(読) 文章の構成を踏まえ、教材文の言葉を使いながら要旨をまとめている。 (ワークシート・発表) (書) 「見出し(事実)」と「説明」で分かりやすく「動物ふしぎ発見カード」を書いている。(動物ふしぎ発見カード) (読) 動物のふしぎを分かりやすく発表することができる。(発表)

7. 本時の学習

(1) ねらい 読み取ったことをもとに、「動物ふしぎ発見カード」を書くことができる。

(2) 本時の流れ (9 / 10)

時間	主な学習活動 (○) と予想される児童の反応 (・)	教師の支援 (・)、評価 (☆)
5	○前時の振り返りをする。 ・環境に適応して生きる動物がたくさんいた。 ・その場所で生きるためにいろいろな体の仕組みがあった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> めあて 本論の中からふしぎを見つけ、「動物ふしぎ発見カード」を書こう。 </div>	・前時にまとめた文章構成図やワークシートを参考にさせる。
10	○紹介したい「動物のふしぎ」を考える。 【極地の動物】グループ ・極地の動物は厚い皮下脂肪と良質の体毛があって、寒さから身を守っているんだ。 ・寒さと断食にたえるペンギンはすごい。 【温帯の動物】グループ ・近づく冬を知るチョウの工夫が分かった。 ・敵から身を守るために衣がえをする動物がいるんだ。 【砂漠の動物】グループ ・25年もたまごのまままで生きているなんてすごい。 ・砂漠には水を一滴も飲まずに生きるねずみがいる。 【熱帯雨林の動物】グループ ・熱帯には昆虫がたくさんいて、はでで大型なものが多い。	・文章構成図をもとに、要旨を確認しながら紹介したい「動物のふしぎ」についてペアで話し合わせる。 ・本論の中から、「動物のふしぎ」について、事実の部分と説明の部分ペアで確認させる。 ・環境に適応している点で、自分が「すごい」と思ったことを選べばいいことを伝える。 ☆読みとったことをもとに、動物のふしぎについて話し合っている。(発言)
25	○「動物ふしぎ発見カード」を書く。 ・聞く人が分かるように書きたいな。 ・難しい言葉には説明をつけようかな。	・「動物ふしぎカード」には、動物のふしぎを「見出し(事実)」と「説明」で書くことを伝える。 ☆読み取ったことをもとに、動物のふしぎを「見出し(事実)」と「説明」で書いている。(動物ふしぎカード)
35	○ペアで発表の練習をする。 ・ゆっくりと話した方が、聞く人が分かりやすいよ。	・互いの発表を聞き合い、アドバイスをを行うように助言する。
40	○まとめと振り返りをする。 ・動物のふしぎを分かりやすく書くことができた。 ・動物ふしぎ発表会が楽しんだ。 ・3・4年生に分かりやすく伝えたいな。	・本時の振り返りをして、次時の「動物ふしぎ発表会」への意欲付けの声かけを行う。

(3)本時の評価

	十分満足できる	おおむね満足できる	支援を必要とする 児童への指導の手立て
読書 むく ここ とと	環境に適応して生きる動物について、読みとったことを「見出し（事実）」と「説明」で、分かりやすくまとめて書くことができる。	環境に適応して生きる動物について、読みとったことを文章中の言葉を使って、「見出し（事実）」と「説明」で書くことができる。	文章構成図やワークシートを提示しどんな動物のふしぎを伝えたいのか考えさせる。 ペアの相手の話をよく聞くように支援をする。

(4)研究の視点

- 言語活動として、書くことも関連させた「動物ふしぎ発見カード」を使って発表する「動物ふしぎ発表会」を設定したことは、学習意欲を高める上で有効であったか。
- 複数の情報を関連付けて読ませる活動を取り入れたことは、課題解決に向けて主体的に読み、思考を深める上で有効であったか。
- 「生かす過程」で、「ふしぎふしぎ動物ランド（環境と適応）」をペアで話し合いながら読みとる活動を取り入れたことは、友だちのまとめ方や読みとりのよさに気づき、自分の考えを深める上で有効であったか。